

## リツキシマブ療法

### 今日の点滴のスケジュール

	お薬名	点滴時間	薬の効果
1	リツキシマブ _____ mg	4 時間前後	がん細胞の増殖を抑える薬です。

### 投薬スケジュール

お薬名	1 日目	以降 1 週間以上
リツキシマブ		お休み

\* 他のお薬と組み合わせて使う場合予定が変わります

症状や経過に合わせてお休み期間は変わります。左の表の治療を繰り返し行います。



#### -MEMO-

リツキシマブは、Bリンパ球に発現しているCD20 抗原に結合することで、CD20 抗原発現細胞を破壊します。

リツキシマブは単独で行う方法と他の抗がん剤と組み合わせて使うことがあります。他の抗がん剤と組み合わせて使う場合には、その薬による副作用がでる場合がありますので注意してください。

### 点滴当日注意していただきたいこと

- 投与してから 24 時間以内に、インフュージョンリアクションと呼ばれる発熱、寒気、皮膚の赤みやぶつぶつ、かゆみ、咳、息苦しさ、のどの違和感が起こる事があります。症状を軽くするために、抗ヒスタミン薬（ポララミン錠）と解熱鎮痛剤（カロナール錠）をお飲みいただきます。一般的には点滴するたびに、症状は出にくく、軽くなっていきます。



発熱、寒気



頭痛

- 点滴を刺している部分に痛みやヒリヒリ感、赤み、腫れなど感じたら、すぐに医療スタッフにお申し出ください。（血管の外に点滴が漏れている可能性があります。）
- 点滴中、気分が悪くなったり、なにか気になる症状が現れた場合には早めに医療スタッフまでお申し出ください。



## 予想される副作用

このお薬単独で副作用が起きることはまれですが、以下の症状がある場合は、お申し出ください。

- 息切れ
- 発熱
- 発疹など皮膚の異常
- など

**ご自宅で以下のような症状が現れた場合は必ずご連絡ください。**

- 38度以上の発熱があるとき
- 1日の半分以上を寝てすごさなければならないほどのだるさがあるとき
- 吐き気止めの薬を内服していても、1日6回以上の嘔吐、または水分をとれないほどの吐き気があるとき
- 1日7回以上の下痢があるとき

上記以外でもご自宅で副作用が現れたとき（いつもと違うと感じたとき）には我慢することなく、以下の連絡先にご連絡ください。

公立大学法人 横浜市立大学附属市民総合医療センター  
血液内科

電話：045（261）5656（代表）

※ご連絡の際は診療券をお手元にご用意ください。



## ベンダムスチン療法

### 今日の点滴のスケジュール

※ 点滴時間、開始時間は変更になることがあります。

お薬名		点滴時間	薬の効果
ラクテック 2時間30分 かけて	1 デキサート アロキシ (アロキシは1日目のみ)	5分	抗がん剤による吐き気・嘔吐 <sup>おうと</sup> を予防する目的で使います。
水分 電解質 を補給します	2 ベンダムスチン _____mg	1時間	がん細胞の増殖を抑える薬です。

### 投薬スケジュール

お薬名	1・2日目	3日目～
ベンダムスチン		お休み



2日連続で点滴し、以降19日間以上お休みします。  
他のお薬との併用などによって、スケジュールは変更になることがあります。

### 点滴当日注意していただきたいこと

- 点滴を刺している部分に痛みやヒリヒリ感、赤み、腫れなど感じたら、すぐに医療スタッフへお申し出ください。(血管の外に点滴が漏れている可能性があります。)
- 点滴中に気分が悪くなるなど不快な症状を感じたら、すぐに医療スタッフまでお申し出ください。



### 予想される副作用

#### 食欲不振・嘔気・嘔吐

治療を開始した後から出始めることがあります。最近では効果の高い吐き気止めがあり、辛い思いをされる方が少なくなりました。症状に合わせて吐き気止めを追加できます。我慢せずお申し出ください。

## 骨髄抑制

骨髄で作られる血液の成分が減ることで、多くの抗がん剤にみられます。白血球が減ると感染症にかかりやすくなります。手洗い、マスク着用、3密を避けるなど感染対策に努めてください。血小板が減ると小さな傷でも出血したり、血が止まりにくくなることがあります。治療中はけがや転倒などしないよう気を付けてください。赤血球が減ると貧血になり、疲れやすくなったり、めまいが起こることがあります。



## アレルギー様症状

発疹、かゆみ、のどの違和感、発熱/悪寒などのアレルギー症状が出ることがあります。

## 注射部位の痛み、血管炎

点滴中または点滴後に注射した部位やその周辺に痛み、炎症が出ることがあります。腕を温めることで痛みが緩和されることがあります。

他に腎障害、肝障害、倦怠感、心機能障害（動悸）、眼障害（炎症）、便秘/下痢、口内炎、疲労・倦怠感、頭痛などが起こることがあります。

**ご自宅で以下のような症状が現れた場合は必ずご連絡ください。**

- 38度以上の発熱があるとき
- 1日の半分以上を寝てすごさなければならないほどのだるさがあるとき
- 吐き気止めの薬を内服していても、1日6回以上の嘔吐、または水分をとれないほどの吐き気があるとき
- 1日7回以上の下痢があるとき

上記以外でもご自宅で副作用が現れたとき（いつもと違うと感じたとき）には我慢することなく、以下の連絡先にご連絡ください。

公立大学法人 横浜市立大学附属市民総合医療センター  
血液内科

電話：045（261）5656（代表）

※ご連絡の際は診療券をお手元にご用意ください。

